

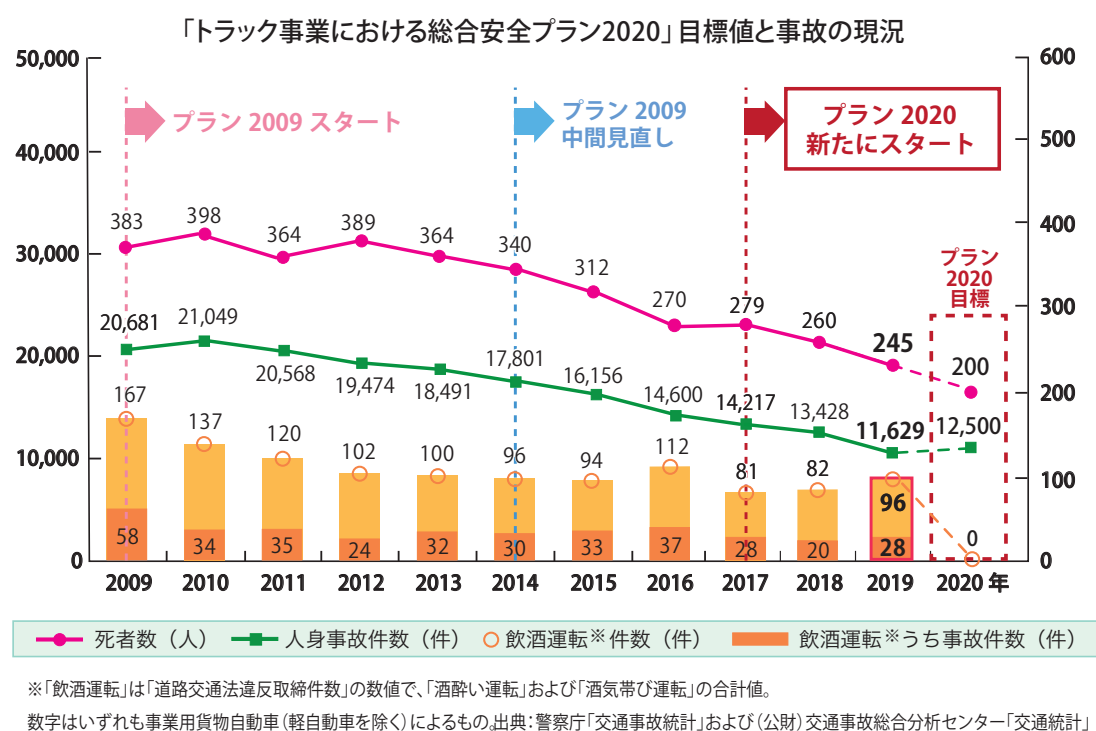
令和元年中 事業用トラックが第1当事者となった死亡事故

全ト協 交通事故統計分析結果〔発生地別〕概要

対象は事業用貨物自動車(軽を除く)が第1当事者となった死亡事故。また、「車両相互」での第2当事者となる「車両」には道路交通法上の「軽車両」である「自転車等」を含む。

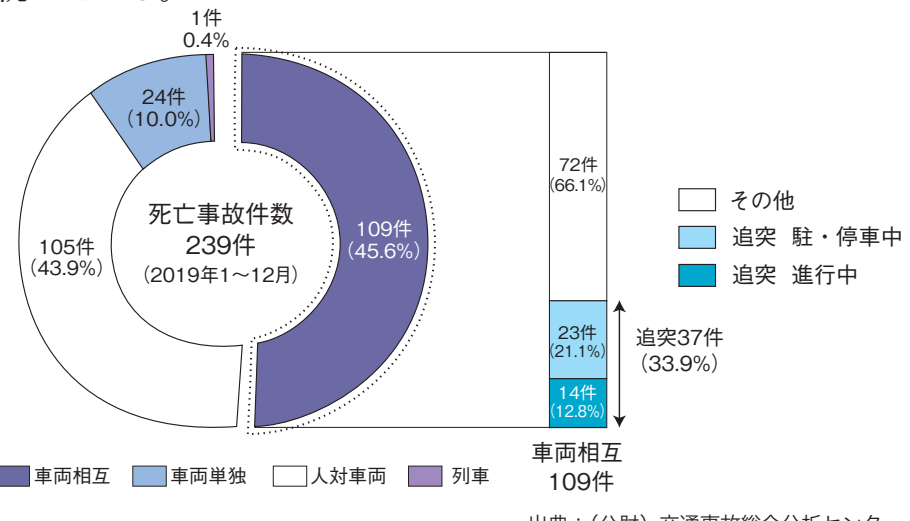
◆ 事故件数および死者数

- 2020年を最終目標年として平成29(2017)年に改訂した「トラック事業における総合安全プラン2020」の目標指標である、事業用トラックを第1当事者とする死者数は245人、人身事故件数は11,629件と減少傾向にある。
- 他方、事業用トラックの飲酒による交通事故件数は28件(前年比8件増)と増加するなど「飲酒運転ゼロ」とする目標達成にはほど遠い現状となっており、より一層の飲酒事故防止対策の取り組みが強く求められる。



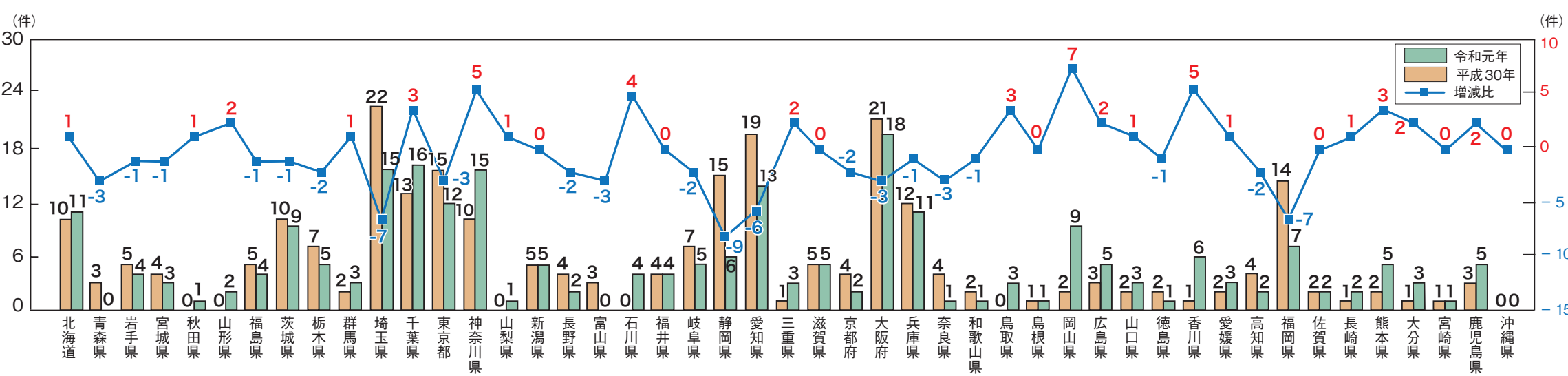
◆ 事故類型別

- 平成31年1月～令和元年12月の傾向をみると、「車両相互」が最も多く109件(45.6%)と5割近くを占めている。
- 次いで、「人対車両105件(43.9%)」、「車両単独」24件(10.0%)と続いている。



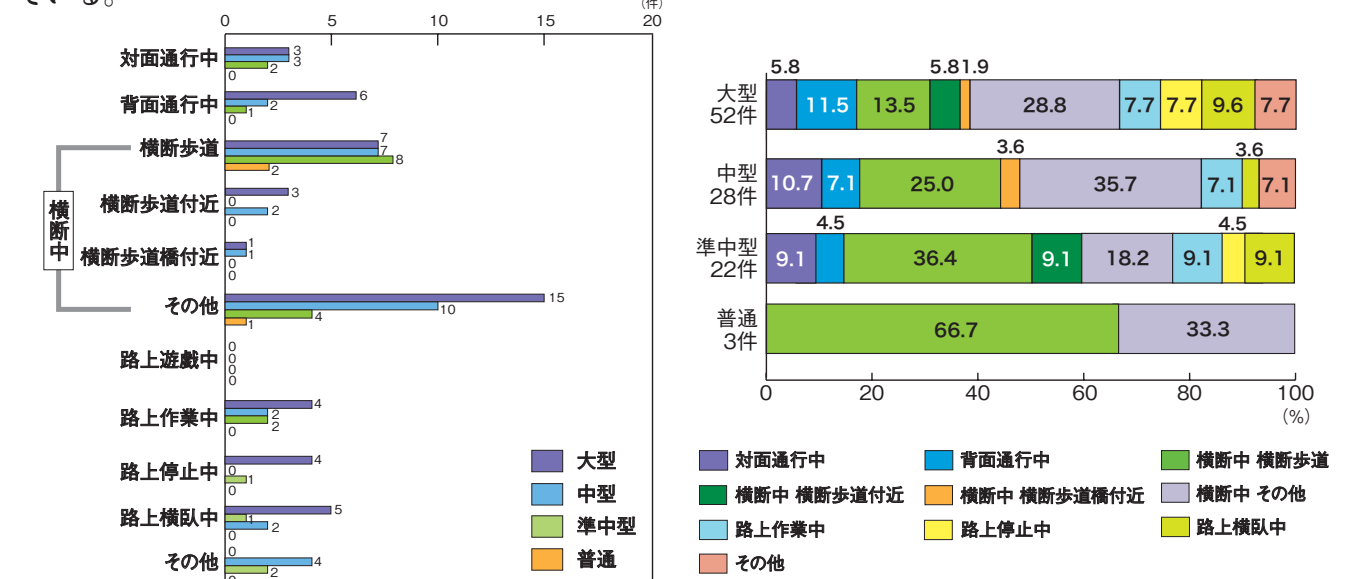
◆ 発生地別

- 平成31年1月～令和元年12月の発生地別死亡事故件数の多い県をみると、「大阪府」が最も多く18件、次いで「千葉県」16件、「埼玉県」「神奈川県」がそれぞれ15件、「愛知県」13件と続いている。
- 前年と比較すると、「岡山県」が7件増と突出しており、「神奈川県」「香川県」の5件増、「石川県」の4件増と続いている。
- 東京都をはじめとする大都市圏での事故発生が依然として多い傾向にある。



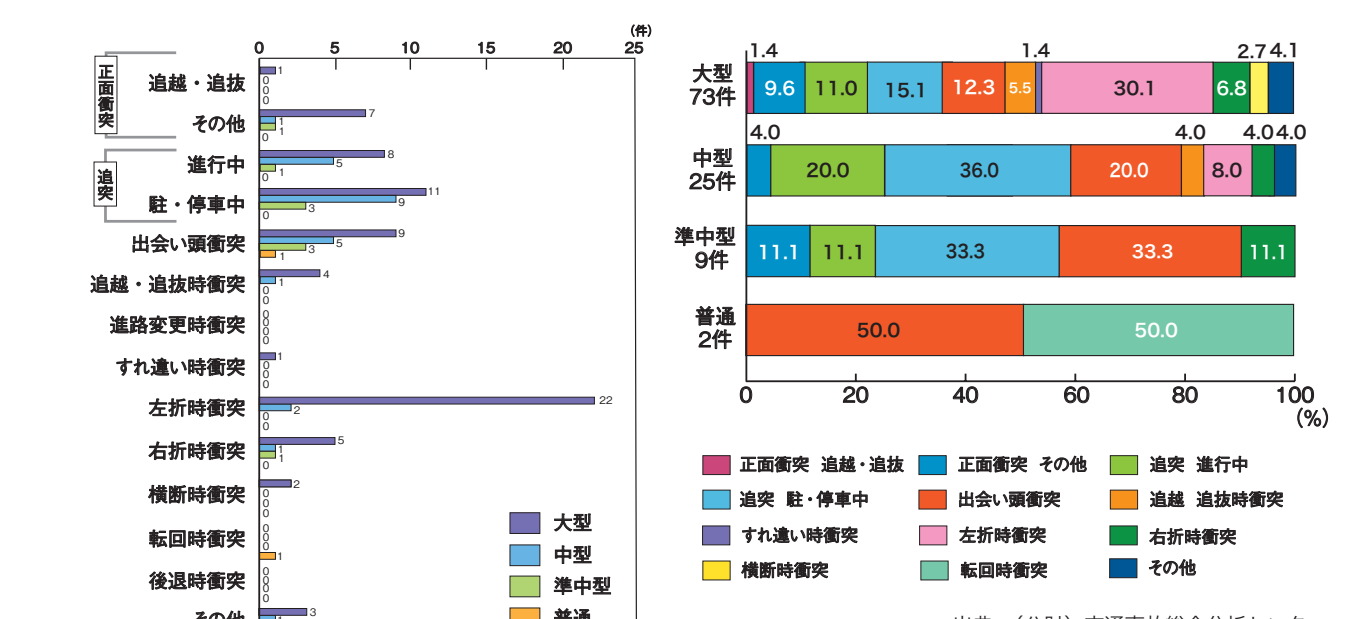
◆ 事故類型別(車両区分)

- 車両区分別の事故類型(人対車両)別 ※「人対車両」には、対自転車事故は含まない
- 車両区分別の事故類型(人対車両)別にみると、「大型」、「中型」は「横断中 その他」が最も多く、それぞれ15件(28.8%)、10件(35.7%)となっている。
- 「準中型」、「普通」は「横断中 横断歩道」が最も多くそれぞれ8件(36.4%)、2件(66.7%)となっている。



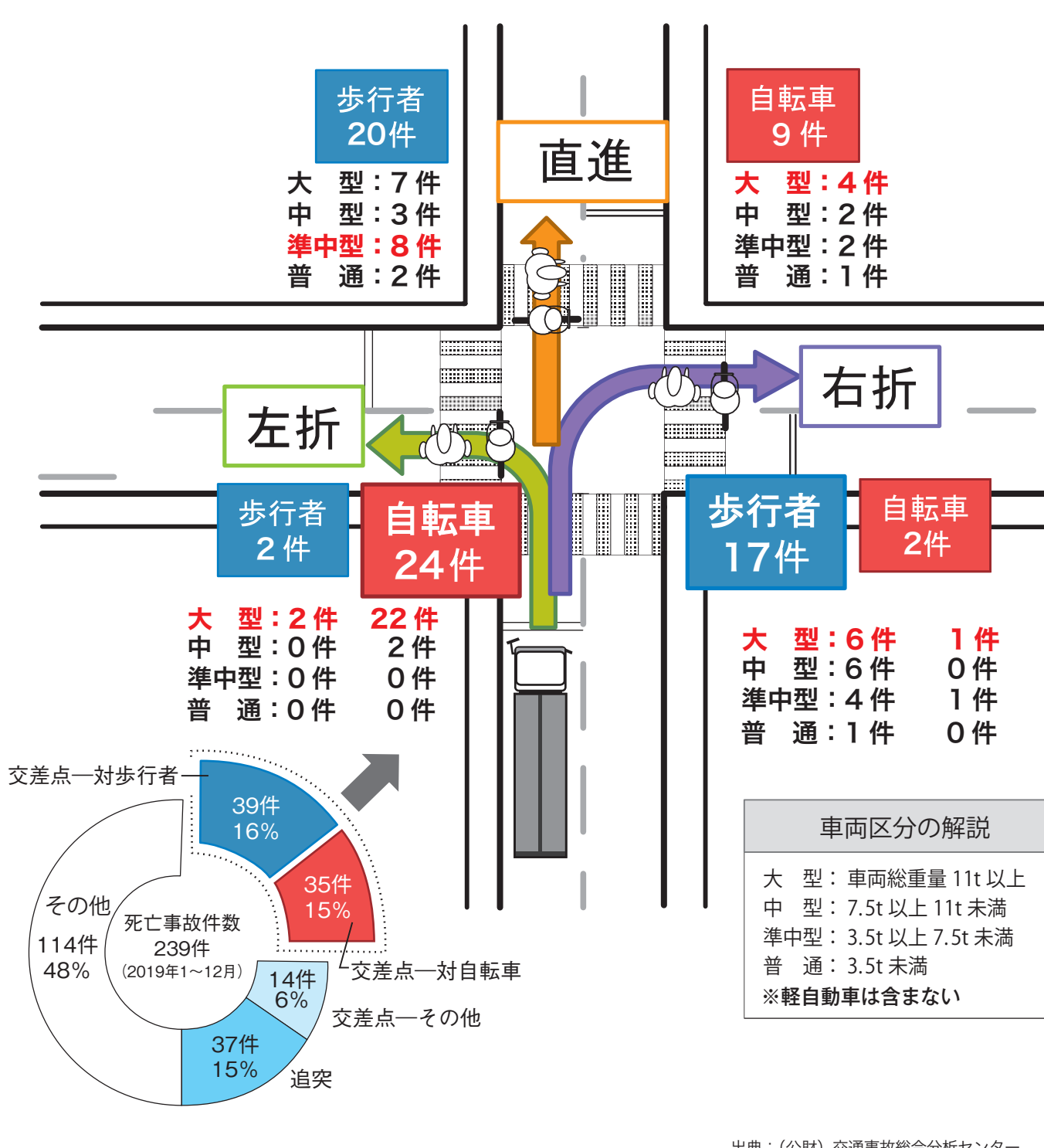
(2) 車両区分別の事故類型(車両相互)別

- 車両区分別の事故類型(車両相互)別にみると、「大型」は「左折時衝突」が最も多く22件(30.1%)、次いで「追突 駐・停車中」11件(15.1%)、「出会い頭衝突」9件(12.3%)と続いている。
- 「中型」は「追突 駐・停車中」が最も多く9件(36.0%)、次いで「追突 進行中」、「出会い頭衝突」がそれぞれ5件(20.0%)と続いている。
- 「準中型」は「追突 駐・停車中」、「出会い頭衝突」が最も多く、それぞれ3件(33.3%)となっている。
- 「普通」は「出会い頭衝突」、「転回時衝突」がそれぞれ1件(50.0%)となっている。



◆ 交差点における死亡事故(対歩行者・対自転車別)

- 事業用トラックが第1当事者となる交差点における対歩行者、対自転車の死亡事故(74件)は、追突事故(37件)の2.0倍。
- 左折死亡事故は、8割強が大型車による対自転車事故(22件)。
- 直進死亡事故は、7割近くが対歩行者事故(20件)。
- 右折死亡事故は、約9割が対歩行者事故(17件)、うち7割以上が中・大型車。



車両区分の解説

- 大型: 車両総重量11t以上
- 中型: 7.5t以上11t未満
- 準中型: 3.5t以上7.5t未満
- 普通: 3.5t未満

※軽自動車は含まない